

第73回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会山口大会

開催日 令和5年8月3日(木)・8月4日(金)

会場 かめ福オンプレイス / ホテルニュータナカ

大会主題

自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進

第1日 8月3日(木)

第1回 理事会



第73回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会山口大会
第16回守備地区公立小・中学校女性校長会研究協議大会山口大会

山口大会 [第1次案内]

開催日 令和5年8月3日(木)・4日(金)
全国公立小・中学校女性校長会 会長 小池 夏子
山口県公立小・中学校女性校長会 会長 菅田 真由美

1 目的
本大会は、全国公立小・中学校女性校長会、全国の公立小・中学校の女性校長を中心として組織し、役員相互の連絡をとり、研究を推進することにより、各都道府県教育委員会を通じて女性校長の地位及び職務の向上を図り、学校教育の発展に寄与することを目的としています。
本大会は、会員の相互理解を深め、連携を推進する重要な機会となり、教育の発展に貢献することを目的として開催いたします。各都道府県公立小・中学校女性校長会を代表して参加いたします。
今年、我が国はかつてない大規模な地震の中であり、学校が被災し、学びの場が失われる危険にさらされています。このように困難な状況下で、校長の役割は従来の以上に求められています。学校経営の高度化、学校教育の充実を図ることが求められ、校長の責務はますます重くなっています。県内を問わず、県内外に亘って、県内外の公立小・中学校女性校長会と連携し、互いに支え合い、学び合おうとします。また、研修活動の場として多くの先生たちが集い、県下だけでなく、全国の先生方と交流を深めたいです。また、県内だけでなく、県外からも多くの先生方が参加し、学び合おうとします。本大会は、公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会山口大会を開催します。参加費が無料となります。ぜひ、自ら未来を拓き、日本人として共に221社会を創る子どもを育成に努めたいです。

2 大会主題
自ら未来を切り拓き共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進
～高い志をもち、つなごうを生かしてしなやかに生き抜く子供を育む学校経営～

3 主催
全国公立小・中学校女性校長会
守備地区公立小・中学校女性校長会
山口県公立小・中学校女性校長会

4 後援(予定)
文部科学省、山口県、山口市、山口県教育委員会、山口市教育委員会
全国公立小・中学校女性校長会、守備地区公立小・中学校女性校長会、山口県公立小・中学校女性校長会、(公財)日本経済新聞社、(公財)日本放送協会、山口県教育委員会

5 開催地
山口県山口市
ホテルニュータナカ
山口県山口市御田町4-5-2 TEL:083-433-7000
ホテルニュータナカ
山口県山口市御田町4-5-2 TEL:083-433-1313

6 会場
ホテルニュータナカ
山口県山口市御田町4-5-2 TEL:083-433-7000
ホテルニュータナカ
山口県山口市御田町4-5-2 TEL:083-433-1313

7 大会日程

1日目 令和5年8月3日(木)	9:00～ 受付	10:00～ 開会式
	9:30～ 開会式	10:30～ 懇話会
	11:30～ 昼食・懇話会	12:00～ 懇話会
	13:00～ 懇話会	14:00～ 昼食
	15:00～ 懇話会	16:00～ 終了

2日目 令和5年8月4日(金)

9:00～ 受付	11:40～ 閉会式
9:30～ 懇話会・分科会	12:00～ 終了
11:30～ 懇話会	

8 講演・講師
講師 文部科学省
記念講演 藤原 義典 弘栄 隆史 先生



会長挨拶



顧問挨拶

4年ぶりの、対面式での開催となりました。各都道府県の理事の皆様により、令和5年度の活動方針や事業計画、予算などについてご審議いただき、ご理解・ご協力を得るとともに、各地区の情報交換などを行いました。

令和5年度 第一回理事会 会長挨拶

理事の皆様、おはようございます。今年、理事会、総会、研究協議大会と久しぶりにすべて対面で行うことになりました。夏季休業中とはいえ、公務御多用のところ、朝早くからお集まりいただき、ありがとうございます。また、皆様には日頃より、各地区の女性校長会の推進役として、本会の円滑な運営にお力添えをいただいておりますことに、改めて、感謝申し上げます。

この理事会は、本会の令和5年度の活動方針や事業計画、予算などについて、御審議いただき、御理解・御協力を得るとともに、本会の活動をより活性化させ、発展させるための御意見を頂戴する場でもあります。限られた時間ではありますが、有意義な一時になれば幸いに存じます。

さて、今年4月に「こども基本法」が施行され、「こども家庭庁」が設置されました。子供の幸福な成長を促進することが目的です。子供の年齢を制限しておらず、子供や若者が円滑に社会生活を送ることができるようになるまで支援していくことが記されています。この「こども基本法」の理念と目的を実現するための視点をもって、私達は学校経営を行っていかねばならないと考えております。すべての子供たちが地理的、経済的、社会的な条件に関係なく公平に学校教育を受けられるようにすること、つまり、一人も取り残さない教育の実践です。地理的・経済的な困難さへの対応ではオンライン環境を整え、日本中どこでも一定の学習環境を提供できるようにすることも効果的な方法だと言われています。四人に一人は自分の親を毒親だと認識しているという実態もあると伝えられ(株式会社 serendipity 調べ)、ヤングケアラーなど家庭環境が不安定な状況下で暮らす子供たちも増えています。この対応としては、相談体制の充実・地域コミュニティのサポート体制の確立などが必要となります。個別のニーズに即した教育を提供し、多様に富んだ学校経営を目指さなければなりません。

また、教員の働き方改革の推進も重要な課題です。学校現場の労働環境の改善を図ること、教員が教育に集中できるような業務サポート体制の確立、部活動指導をはじめとした地域資源の活用、男性の育児休業取得など教職員が柔軟な働き方を選択できる環境整備を行い、教職員が働きやすい職場を作らなければならない現状です。従来は、女性の働き方を男性の働き方に近づけてきましたが、これからは、この逆、女性の働き方に男性の働き方を近づけるべきだとも言われています。

これらのことに対して、私達女性校長は明確なビジョンをもち、一人一人の子供たちと教職員の幸福と成長を追求する学校を作っていくためにリーダーシップを発揮してまいりましょう。本大会を通して、全国の会員の皆様との絆を深め、学びを通して、お一人お一人の学校経営をより一層豊かなものにしていただきたく存じます。

本会が発行しております「活動状況報告」によりますと、会員数が5000人を超えました。大変喜ばしいことですが、まだまだ地域格差の大きさは否めません。2023年度のジェンダー・ギャップ指数において日本は146か国中125位でG7主要7か国中最下位であるという現実もしっかりと見つめなければなりません。今も一般企業などにおける、男女差は私達の教育現場からは想像できない厳しさがあります。国会議員が女性議員で研究会を立ち上げたり、経済界では女性経営者を支援する女性の会が作られていたり、女性同士で協力し、支援し合う場所が必要であるのが日本社会の現状です。私達は、女性管理職登用に向けてますます力を結集し、真の男女共同参画社会の実現に向けて、教育を通して、女性リーダーの活躍の場を広げ、私達一人一人が後に続く女性教員や社会全体で活躍する女性のリーダーを育成してまいりましょう。

結びに、本大会において、計画的に周到な準備を進めてこられました、正木 郁子山口県女性校長会会長、富田紀子大会実行委員長をはじめ、山口県実行委員会の皆様に心より感謝申し上げますとともに、全国からお集まりいただきました会員の皆様に山口大会の二日間を満足していただけるよう、理事の皆様の御協力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和5年度 第一回理事会 顧問挨拶

理事の皆様、おはようございます。 本会の様々な活動にご理解とご協力をいただき、改めて心より感謝申し上げます。

さて、令和元年度の埼玉大会以来の、徳島大会、兵庫大会、石川大会では、誌上発表、オンライン発表、オンデマンド配信といった、大会地区の皆様の英知と工夫により、学びを止めずに、学びの方法を工夫し、その効果も学びながら私たちは進んでまいりました。

学校での教育活動も同様に、一人一台タブレット端末が整備され、学びの形も様々に変化しています。

この夏、本校の1年生が朝顔の観察をする際、タブレット端末で写真に撮り、教室で見直ししながら生活科カードに取り組んでいました。撮った写真を拡大することで、肉眼での観察では分からなかった多くの気づきを得ていました。コロナ禍前であれば、校庭で観察しながらカードに記入している風景でした。昨今の猛暑により、外での活動は制限を余儀なくされることも多く、新たな学びの形と言えそうです。

一方で、実際に朝顔の葉や茎の産毛を見たり、触れたりすることで得られる実感、気づきも大切です。子供たちにとっては、やはりこの両者をその必要性、有効性に応じて選択し、活用していくことが大切であろうと、学習の様子を見ながら感じたところです。

群馬大学の柴田博仁（しばた ひろひと）教授は、令和4年度 関東地区学校図書館研究大会での講演「子供の読書における紙とデジタルの使い分け サブテーマ～認知科学からの考察～」の中で、デジタル読書の利点も述べつつ、紙の読書の利点は「自分がどこにいるのかわかる」ことだと述べています。紙の読書では、ページをめくり、時には読み戻ったりする中で、自分が今読んでいるのは本のどのあたりなのかが分かる、という意味です。そして、ページをめくるということは、実は手でも読んでいるのだ、とも述べていました。生活科で、朝顔の産毛を実際に見て触れた実感にも通じるものがあるように思います。

私たちのこの全国研究協議大会も、ICTの優れた点を存分に活用し、学びを深めてまいりました。そして、今、皆様との対面がかない、うなずいたり、顔を見合わせたりといった中で実感できる学びを深めようとしております。山口県の実行委員会の皆様の熱い思いと実行力に私たち全員が応えるためにも、ようやく実現できたこの貴重な場を、理事の皆様と共に、充実した会にしてまいりたいと考えます。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

開 会 式

- 1 開会の言葉
- 2 国歌斉唱
- 3 挨拶

全国公立小・中学校女性校長会 会長

宮崎 朋子



挨拶に先立ちまして、今年は豪雨による被害が各地で相次ぎました。被害に遭われました方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、平穏な日々が一日も早く戻ってくることを祈念いたします。

本日、第73回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会を「西の京」と呼ばれる美しい街並みの山口県山口市においてこのように盛大に開催できますこと、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

また、開会式に公務御多用の中、文部科学省初等中等教育局視学官 菅野和彦様、山口県知事村岡嗣政様、山口県教育委員会教育長 繁吉健志様、山口市長 伊藤和貴様をはじめ、御臨席を賜りました御来賓の皆様、また、開催にあたり、力強い御協力・御支援を頂戴いたしました関係機関の皆様にご心より感謝し、御礼申し上げます。

本会は、多くの諸先輩方の御努力により、女性校長の地位の向上、人材育成をはかりながら、学校教育の振興に寄与してまいりました。昭和26年、80名でスタートした当時、女性校長に過酷とも言える厳しい社会状況の中にあって、「同志よ弱らないで、誠実は奇跡を生む。」と励まし合い、助け合い、知性・感性・品性を大切にしながら、世の信頼を得てまいりました。以来その意志や活動が連綿と引き継がれ、今日ここに第73回全国研究協議大会を開催するに至りました。

本年は4年ぶりの対面での開催となります。過去三大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、対面での開催は控えてまいりました。しかし、紙面開催・オンデマンド開催など様々な方法を試み、大会を継続してまいりました。大会開催県の皆様の御努力には感服するばかりです。これは、「学びを止めない」という言葉を、私達女性校長が率先して実践してきたことだと自負しております。本大会では、様々な英知を駆使してこの4年間を過ごしてきた本会の皆様が一堂に会し、学校経営のより一層の充実につながる深い学びがあることを確信しております。

さて、先日7月4日に文部科学省から「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」が示され、現時点での生成AIの活用の適否を判断する際の参考資料として公表されました。AIの効果的な活用としては、子供たちの話し合い活動の場で足りない視点を求めること、英会話の相手として活用すること、AIの回答が間違いの場合もあることを知らせるなどの情報モラル教育があり、よくない活用例としては、テストで使うこと、AIが作成したものを自分の作品として提出することなどがあるとされています。また、保護者アンケートによると、子供に思考力・記述力が身に付かなくなることが心配だと44.4%の保護者が生成AIへの危惧を示しているといわれる実態も考慮しなければなりません。

AIは蓄積されたデータ等を元に、求められた内容を提示します。AI自体に意志や創造性があるわけではなく、人間が作り上げたプログラムの範囲内での創作です。従って、今のところAIは人間の力を超えるものではありません。私達が学校教育で育てていく子供たちには、AIを道具として使用し、新たな未知なるものを作り出す発想力や想像力、そして、豊かな感性などを身に付けさせていくことが必要です。変化に対応する柔軟性をもち、成長し続ける子供を育ててまいりましょう。また、子供たちにそのような力を直接身に付けさせていくのが教員です。この点が30年後もなくなる仕事として小・中学校の教員が挙げられているゆえんです。変化していく未来を見据え、必要な力を伸ばすことができる教員の育成は私達校長にとって最も重要な仕事です。優れた教員の育成にリーダーシップを発揮し、未来社会を担う人材を育てていくという、この仕事の尊さや責任の重さを確かめながら学校改革に取り組んでまいりましょう。

ここ、山口県は明治維新胎動の地として名を馳せており、名だたる志士を輩出し、激動の時代を中心となった地です。古からの志が脈々と受け継がれている山口県において、私達女性校長は、本会の研究主題「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を作る日本人を育成する学校教育の推進」副主題「高い志をもち、つながりを生かしてしなやかに生き抜く子供を育む学校経営」を目指し、研修を深めてまいりましょう。

私達の会の果たすべき重要な役割に、一人一人、個性と能力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、女性教員の活躍の場の拡大と女性管理職の育成及び登用の促進を図ることがあります。意欲と行動力のある女性教員を育て、管理職として活躍できる人材を育成してまいりましょう。

結びに当たり、正木 郁子山口県女性校長会会長、富田 紀子大会実行委員長をはじめ、山口県実行委員会の皆様の3年に及ぶきめ細やかな御準備に対しまして、深く感謝申し上げます、御出席くださいました皆様にとりまして、山口大会が学校経営に資する多くの示唆に富んだ深い学びの場になりますことを祈念し、挨拶といたします。

3 挨拶

山口大会 実行委員長

富田 紀子



ご来場の皆様、ようおいでくださいました。山口へ。

全国各地から多くの皆様をお迎えして、第73回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会並びに第16回中国地区公立小・中学校女性校長会研究協議大会をここ山口において開催できますこと心から感謝申し上げます。

本大会を開催するにあたり、多大なご指導とご支援を賜りました文部科学省をはじめ、山口県、山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、関係諸機関の皆様には厚くお礼申し上げます。また、本日はご多用の中、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。そして、大会開催の道筋をつけてくださった私たちの大先輩である梅の実会の方々にも多数ご参加いただきまして、感無量でございます。

さて、本大会では、大会主題「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」の趣旨を受け、副主題を「高い志をもち、つながりを生かしてしなやかに生き抜く子供を育む学校経営」としました。明治維新胎動の地である山口から、「志」「つながり」「しなやかさ」をもって生き抜く子供たちを育むため、校長としての先見性、創造性、指導性をどう発揮していくかということをお客様と熱く語り合いたいと思います。

こうして参集での大会再開が、ここ山口の地でできますことに深くご縁を感じております。よりよい学校教育の在り方を求めて集われた皆様のご期待に沿うべく、本県会員一丸となって準備を進めてまいりました。また、十分なおもてなしをするために男性の校長先生方にもお手伝いをいただいております。

記念講演には、漫画家の弘兼憲史様をお招きし、管理職としての在り方や私たちのこれからの生き方に大きなご示唆をいただけるものと楽しみにしております。

最後になりましたが、本大会開催にあたり、多くの関係者の皆様から頂きましたご支援とご協力に心から感謝申し上げます、挨拶といたします。



文部科学省初等中等教育局 視学官 菅野 和彦 様



山口県知事 村岡 嗣政 様



山口市長 伊藤 和貴 様



山口県教育委員会教育長 繁吉 健志 様



全国連合小学校長会会長代理 副会長 田中 一郎 様

- 5 来賓紹介
- 6 全国公立小・中学校女性校長会の歌 斉唱
- 7 閉会のことば

総 会



講演

当面する初等中等教育上の諸課題



文部科学省初等中等教育局 視学官 菅野 和彦 様

記念講演

叶う夢・叶わない夢



漫画家 弘兼 憲史 様

懇親会

大会一日目の夕刻、かめ福オンプレイスにて、開催されました。御来賓の皆様からの御挨拶の後、会場を埋め尽くす400人以上の出席者の中、和やかな雰囲気の中で懇談会が進みました。アトラクションとして、山口市御出身のシンガーソングライター ちひろ様 による、美しい歌声が響きました。

金子みすずの詩に、御自身で作曲されたメロディに載せた歌声は、会場の私たちの心に感動をくれました。



懇談会アトラクション ちひろ 様



第2日 8月4日(金)

分科会・分散会

- 1 開会の言葉
- 2 趣旨説明
- 3 提案発表
- 4 研究協議
- 5 指導助言
- 6 閉会の言葉



閉会式

- 1 開会の言葉
- 2 挨拶



全国公立小・中学校女性校長会 会長

宮崎 朋子

山口大会 実行委員長

富田 紀子



3 大会宣言決議



山口大会 研修部長

清水 聡美

4 次期開催地代表挨拶

北海道大会 実行委員長

山田 千晶



5 閉会の言葉

皆様、ありがとうございました。